



写真提供：小樽市総合博物館

KITAMAE BUNE TOURMAP in OTARU 日本遺産「北前船」 小樽市の構成文化財・周遊マップ

江戸時代中期から明治30年代にかけて、北海道と大阪を主に日本海回りで往来した商船群は『北前船』と呼ばれ、「動く総合商社」と形容されるほどその富は莫大なものでした。

明治2年に開拓使が設置されると、小樽には各地から移民が押し寄せ、人口が急増します。小樽港は、交易品と移民たちの生活物資を運ぶ北前船の重要な寄港地として発展を遂げ、北前船主たちによって大規模な倉庫などが次々と建造されます。社交場として賑わう料亭、大きな商家や蔵、神社仏閣への奉納物など、北前船を取り巻く人々たちによって街が築かれていきました。

日本海の荒波を越え、一攫千金を夢見た男たちが、人・物・文化を運んだ『北前船』は、北海道にやってきた人たちの生活を支え、小樽の発展の基礎をつくったと言えるのです。



至 祝津

観光船「あおぼと」で祝津へ
 第3号ふ頭の樽観光船乗り場から
 出港し、祝津港で乗降できる便利な
 海上観光船。北前船の船乗りたちの
 ように海から小樽の風景を楽しめ
 ます。

小樽港


小樽築港駅

至 札幌




日本遺産「北前船」・小樽市の構成文化財

01 日和山	小樽市祝津3-240	
02-A 旧北浜地区倉庫群(旧右近倉庫)	小樽市色内3-10-18	内部見学不可
02-B 旧北浜地区倉庫群(旧広海倉庫)	小樽市色内3-10-19	内部見学不可
02-C 旧北浜地区倉庫群(旧増田倉庫)	小樽市色内3-10-19	内部見学不可
02-D 旧北浜地区倉庫群(旧大家倉庫)	小樽市色内2-3-11	内部見学不可
02-E 旧北浜地区倉庫群(旧小樽倉庫)	小樽市色内2-1-20	小樽市総合博物館運河館
03 旧魁陽亭	小樽市住吉町4-7	当面は見学不可
04 住吉神社奉納物	小樽市住ノ江2-5-1	見学可能
05-A 船絵馬群(恵美須神社)	小樽市祝津3-161	祭事のみ見学可能
05-B 船絵馬群(龍徳寺金比羅殿)	小樽市真栄1-3-8	事務所申し出て見学可能
05-C 船絵馬群(徳源寺龍神堂)	小樽市塩谷2-25-1	事務所申し出て見学可能
05-D 船絵馬群(塩谷神社)	小樽市塩谷2-20-20	事務所申し出て一部見学可能
06 北前船関係古写真	小樽市色内2-1-20	小樽市総合博物館運河館
07 西川家文書	小樽市色内2-1-20	小樽市総合博物館運河館


 =小樽市指定歴史的建造物



旧増田倉庫

C 旧増田倉庫 


明治36（1903）年、橋立（石川県加賀市）出身の北前船主・増田又右衛門によって建造。当時、倉庫のすぐ前は海で、手宮駅と港に近く、海陸の輸送と貯蔵に最適の場所でした。隣接する旧広海倉庫、旧右近倉庫とともに、かつての倉庫街の面影を今に伝えています。

D 旧大家倉庫 

明治24（1891）年、瀬越（石川県加賀市）出身の北前船主・大家七平によって建造。建物妻面の「ヤマシチ」印や越屋根、入口部分の二重アーチが特徴的な、小樽を代表する木骨石造倉庫です。大家家は二代目から五代目まで海運業に従事し、



旧大家倉庫

E 旧小樽倉庫 

明治23（1890）年から同27（1894）年にかけて橋立（石川県加賀市）出身の北前船主・西出孫左衛門と西谷庄八によって建造。屋根瓦に鯨をのせた和洋折衷のデザインで、煉瓦造りの事務所を中心に左右対象に展開、中庭を囲



大家七平（四代目）
(1865-1929)

四代目七平の時代に積極的に汽船への転換を進め、全盛期となります。明治35年に日本海一周定期航路を開設。対岸の朝鮮・ロシアを直結する独自の航路は日本海運史上重要な役割を果たしました。

むように倉庫を配置しています。現在、北側は小樽市総合博物館運河館として活用され、北前船関連の資料が多数展示されています。



西谷庄八（五代目）
(1860-1933)



西出孫左衛門（十一代目）
(1864-1938)

01 日和山


祝津の「日和山」は、古くから船乗りたちが出港前に日和（天候や空模様）を見た場所でした。明治4（1871）年に信香町に設置された常灯台が火事で焼失したのち、同16（1883）年10月に、北海道で2番目となる灯台が建設され、航海の重要な目印となりました。




日和山



旧右近倉庫

A 旧右近倉庫 

明治27（1894）年、河野（福井県南越前町）出身の北前船主・右近権左衛門によって建造。妻壁の

B 旧広海倉庫 

明治22（1889）年、瀬越（石川県加賀市）出身の北前船主・広海二郎によって建造。入口付近の二重アーチ、越屋根が特徴的。広海家は最も長期間、海運業を継続した北前船主家の一つ。兄弟の四代目大家七平と共に

02 旧北浜地区倉庫群

小樽には北前船主が物品の保管のために建造した大規模な木骨石造の倉庫群が残っています。その内、北陸の北前船主が造った5件が日本遺産構成文化財に認定されています。

「//」は右近家の印「一膳箸」を意味し、船旗にも使用されていました。明治10年代に小樽へ進出。祝津では漁場経営を手がけ、広海家と共に日本海上保険株式会社を創設しました。

に住吉神社第一鳥居を寄進しました。



広海二郎（五代目）
(1854-1929)



旧広海倉庫



旧小樽倉庫

03 旧魁陽亭

明治29（1896）年建築。創業は安政期と言われ、北前船主や船乗り、商人たちに親しまれました。明治39（1906）年には、日露戦争後の樺太境界画定委員会議終了後の大宴会の会場となるなど、創業以来、国内外の政治家、文化人など各界の著名人が訪れる北海道を代表する料亭として隆盛を誇りました。



上/旧魁陽亭、下/明石の間

04 住吉神社奉納物

北前船主たちは、航海の安全を願い、様々な物を神仏に奉納しました。特に住吉神社は、海にまつわる神社であり、古くから航海安全の守り神として船乗りや商人たちに信仰されてきました。第一鳥居は、明治32



1/第一鳥居、2/玉垣、3/手水鉢、4/狛犬

05 船絵馬群

北前船主や船乗りたちは、航海の安全を祈願して寄港地の神社などに船絵馬を奉納しました。船が精緻に描写され、奉納者の名前や出身地、奉納年、絵師名などが記載されていることもあるため、歴史資料として重要です。また、鮮やかな色彩で描かれており、美術品としても魅力的な絵馬となっています。現在、小樽では恵美須神社本殿の2面、龍徳寺金比羅殿の8面、徳源寺龍神堂の3面、塩谷神社の30面の船絵馬が日本遺産構成文化財に認定されています。

A 恵美須神社本殿の船絵馬

現在の本殿は文久3

（1863）年創建。海の守神である恵美須を祀っていることから、船絵馬が奉納されたと考えられます。



恵美須神社本殿



「祝津村十八番地」の「金内藤太」が明治30（1897）年3月2日に恵美須神社に奉納したものと

B 龍徳寺金比羅殿の船絵馬

龍徳寺は安政4（1857）年の開創当時から龍神を祀る龍宮殿が設置され、明治22（1889）年から金比羅殿として仏と



「新潟県新潟市寄江町 川崎飛夫」が明治27（1894）年7月15日に龍徳寺金比羅殿に奉納したものと



龍徳寺金比羅殿

C 徳源寺龍神堂の船絵馬

もに鎮守されています。金比羅は海の守神として信仰されたため、船絵馬が奉納されたと考えられます。

徳源寺は文久2（1862）年に開創し、本堂は小樽市指定歴史的建造物になっています。本殿左脇の龍神堂内には船絵馬が3面奉納さ

れています。龍神堂正面には越前産の笏谷石製の狛犬、境内地には笏谷石製の三十三観音が設置されています。笏谷石は北前船で各地に運ばれ、北前船文化を象徴する遺産として知られます。



徳源寺龍神堂



「塩谷村 杉田喜代八」が明治13（1880）年5月吉日に徳源寺龍神堂に奉納したものと

D 塩谷神社の船絵馬

塩谷神社は、延宝2



塩谷神社



「桃内村 川尾タケ」が明治28（1895）年5月28日に塩谷神社に奉納したものと

